



▲高磯山の大崩壊の絵図  
(西崎文庫蔵書「諸県変シ全」)



平谷八幡神社▶

## 背景

明治25年(1892)7月25日、台風による暴風雨で、那賀町大戸の高磯山(611m)が大きく崩壊しました。流れ出した土砂は那賀川を越えて対岸の春森まであふれ、那賀川の河床から110mの高さに達しました。この土砂によって那賀川は流れをせき止められ、ダムとなってしまいました。せき止められてから二日後、とうとうダムとなった箇所が決壊して、大水となって下流を襲いました。この話は、高磯山よりも上流にある平谷の薬師堂がせき止められた水によって移動したときの話です。

## アクセス

妙法寺薬師堂

- 平谷小学校の南すぐ
- 那賀町平谷
- 緯度経度 北緯33度47分39秒, 東経134度18分07秒



高磯山の大崩壊によりせき止められた那賀川の水は、上流の辺り一面を水没させました。平谷村(現在の那賀町平谷付近)にある妙法寺も水の底に沈んでしまいました。妙法寺の住職は本尊の観音様や薬師如来様を抱いて、命からがら上ノ内まで避難しました。しかし、建物まで持っていくわけにはいきません。本堂や、お堂など、古くからあった立派な建造物は、ほとんど流失してしまいました。お薬師様をまつていた薬師堂は、水に浮き、だんだん奥の方へ逆流していく水に乗り、現在の平谷八幡神社の上のあたりまでプカプカと浮かんでいってしまいました。

せき止められた水の量はますます増えて、現在の長安口ダムの約一・五倍もの量になってしまいました。さすがに川の流れをせき止めていた土砂も水圧に耐えられなくなり、七月二五日後二時頃から崩れ始め、四時にはついに決壊してしまいました。

平谷でも水がひき始め、たくさんの方の家の残骸や避難させることのできなかつた牛や鶏などの亡骸が、下流へ向かって流されていきました。その時、不思議なことが起こりました。八幡神社まで流されていた薬師堂が、プカプカとり山の方へ向かって戻り始め、水がひくのに合わせて、ドンと元の位置にすわってしまいました。住職が上ノ内まで避難させていたお薬師様も、無事に再びこのお堂へ安置することができました。